

プラント輸出データ便覧

2026 年版



重化学工業通信社

発刊に当たって

エンジニアリング協会が発表した2024年度エンジニアリング産業の実態と動向によると、2024年度海外受注高は前年度比32.7%増の10兆7,550億円で、高水準な受注が続いています。天然ガス需要拡大に伴うLNG(液化天然ガス)プラント建設、電力需要拡大に伴うガス火力発電所建設、鉄道などの都市インフラ整備に対する投資意欲が継続しています。

2026年世界実質GDP(国内総生産)成長率予測は、世界銀行が2.6%、国際通貨基金(IMF)が3.3%で、世界経済の堅調さが見込まれます。一方で、米国の第2次トランプ政権の経済・関税政策、ロシア軍のウクライナ侵攻の膠着状態、イランを中心とする中東地域の緊張激化、インフレなどの懸念から、2026年も不透明感があります。プラント・インフラビジネスは他国企業との受注競争の激化など厳しい環境は続きますが、AI(人工知能)の普及拡大を受けたデジタル市場拡大、エネルギー安全保障、脱炭素化がけん引する設備投資意欲を追い風に、商機も期待されます。

小社は、プラント・エンジニアリング案件などを経営・営業資料としてご利用しやすく分類・整理した本書「プラント輸出データ便覧」を毎年発刊しております。

最新版の2026年版は、①2026年の海外注目プロジェクト、②日本企業と海外企業の2025年プロジェクト受注状況、③総合商社と重機・重電、エンジニアリング専業、鉄鋼系の2024年度決算実績、④海外プロジェクトの分野別状況、⑤2024年度の海外エンジニアリング産業実績、⑥2024年度の海外建設工事受注実績、⑦2024年度の重電機器受注実績、⑧2024年度の円借款プロジェクトリストなど、海外プラント・エンジニアリングビジネスの関連情報をカテゴリー別にまとめております。

今後も期待・注目される海外のプラント・インフラ関連ビジネスでチャンスを獲得するためには、精度が高く体系的な情報の入手が欠かせません。本書が皆様の経営・営業資料としてお役に立てることを心から願うものであります。

なお、プロジェクトの最新動向を把握するため、小社の「重化学工業新報」[Jknews]もあわせてご活用頂ければと存じます。

2026年3月

株式会社 重化学工業通信社
重化学工業新報編集部

第1章 海外プロジェクト受注動向

1. 注目される2026年のプロジェクト(2025年末現在の情報に基づき作成)

【エネルギー・化学】

高まるエネルギー需要に対応するガス中心の展開へ

－注目地域はアフリカ・中東－

2026年のエネルギー・化学分野のプロジェクトは2025年に引き続き、ガス中心の動きとなる。

エネルギー・化学分野は、石油&ガスと石油化学に分野が大きく分かれるが、石油化学は中国の過剰生産の影響で、エチレンの誘導品の価格が下がり、プロジェクトのフィービリティが下がっている。

そのうえに、2025年11月には韓ロッテケミカルがインドネシアの西ジャワ、チレゴン地区に100万t/yのエチレンプラントを中核設備とする石油化学コンプレックスを稼働し、今後もカタールと米国で200万t/yのエチレンプラントが立ち上がる。すでに供給過剰状態にあるにもかかわらず、これだけの石化コンプレックスが立ち上がれば、いっそうの供給過剰状態になる。

これらのことから、2026年のエネルギー・化学プロジェクトにおいては、石油化学プロジェクト市場は一部の例外を除き、壊滅的な状況にある。

その「一部の例外」が、信越化学工業の米国法人であるシンテック社が計画するエチレンプラントの増設計画だ。

シンテックは現在、ルイジアナ州のプラクミンで塩ビの製造プラントを操業中だが、この塩ビの原料であるエチレンを生産する50万t/yのプラントを稼働している。このエチレンプラントを50万t/y増設して、生産能力を100万t/yに増強する計画を進めている。

すでに、同プロジェクトでは、既設を建設した東洋エンジニアリング(TOYO)がエチレンプラントのFEED(基本設計)を始めている。FEED後のプラントの建設においても、設計はTOYOのインド法人であるトーヨーインディア、調達にはトーヨージャパンで行われる。コンストラクションは、TOYOグループは受注せず、シンテックが独自に実施することになる。

このエチレンプラントの増設は塩ビの原料として活用されるエチレンを生産するのが目的だ。あくまでも塩ビ事業の一環であって、コンプレックスの原料供給が目的では無い。

海外における石油海外関連プロジェクトはこれ1件で、2024年、一時的に関心が高まったサウジアラビアのSABIC Agri-Nutrientsのアンモニアプロジェクトも、その後の動きは無い。

■早期に契約するモザンビーク向けFLNGプロジェクト

石油化学プロジェクトはほとんど皆無の状況だが、ガス関連プロジェクトの動きは活発だ。先進国におけるデータセンター需要の高まりを受け、エネルギー需要が増加している。この状況に迅速

地区では、コモンウェルスLNG社が475万t/y×2系列のプラントの建設が計画されている。同プロジェクトは現在のところF I Dが下されていないが、E P Cコントラクターとしては、テクニップエナジーズが決まっている。同社が開発したモジュール工法が採用されるもよう。

またベンチャーグローバルLNG社は、カルカシュー・パスⅡLNG基地建設プロジェクトについて2025年7月にF I Dを下している。同社は62万6,000t/yの小型LNGプラントを数多く建設する独特なプラントで生産しているが、カルカシュー・パスⅡプロジェクトでは、62万6,000t/yのプラントを32基建設する。

一方、カナダでは、昨年10月に日揮グローバル～米フルアのジョイントベンチャーが完工したLNGカナダ社向けフェーズ1計画(700万t/y×2系列)のフェーズ2プロジェクト(700万t/y×2系列)の計画がある。フェーズ2プロジェクトについては2025年8月に、日揮グローバル～米フルアがF E E Dのアップデートを受注している。

エネルギー・化学分野

【マレーシア】

プロジェクト名 (規模・能力・サイト)	事業主体 (発注者等)	総投資額 (建設費)	備 考
ピンツルLNGプラント向けCCS (能)CO2圧入量(2030年)500万t/y (所)サラワク州ピンツル	ペトロナス	—	2024/11日揮グローバルがF E E D作業を開始。2022/1石油資源開発(J A P E X)～ペトロナスが共同スタディを開始(スタディは2023/8まで)

【インドネシア】

アバディLNGプロジェクト (能)LNG液化950万t/y (所)マルク州サムラキ市沖合と近隣陸上部	I N P E X～シェル	—	2025/8F E E Dを開始。陸上プラントについては、日揮インドネシア～テクニップエンジニアリング・インドネシア、K B Rインドネシア～韓サムスンE & A～現地アディカリヤが受注。F P S Oについては、テクニップエンジニアリング・インドネシア～日揮インドネシア、サイペン・インドネシア～トリパトラ～マクダーモットインドネシアがデュアルF E E Dで実施
--	---------------	---	---

【サウジアラビア】

Ras Al Khair第6肥料プラント建設プロジェクト (能)アンモニア3,300t/d、尿素4,400t/d (所)ラス・アル・ハイル	SABIC Agri-Nutrients	—	2025/11商談に動きなし
Ras Al Khair燃料アンモニア製造プラント (所)ラス・アル・ハイル	SABIC Agri-Nutrients	—	2025/11商談に動きなし

【U A E】

ルワイスNGL第5プラント建設 (能)NGL2.2万t/d (所)アブダビ酋長国	A D N O C - G A S	—	2025/11F E E Dと価格を提出。日揮グローバル、伊テクニメント、仏テクニップエナジーズが競合
--	-------------------	---	---

【オマーン】

カルハットLNGコンプレックスLNGプラント第4トレーン増設 (能)第4トレーン:LNG液化380万t/y (所)カルハット地区	オマーンLNG	—	2026年にE P C入札へ。2024/11米K B RがF E E Dを受注。千代田化工建設～韓サムスンC & T、日揮グローバル、伊サイペム～韓・大宇建設が応札予定
--	---------	---	--

2. 日本企業の2025年プロジェクト受注動向<2025年1~12月>

※掲載情報は受注当時の情報を掲載

【エネルギー・化学】

国名 (サイト)	事業主体 (発注者等)	プロジェクト名 (規模・内容)	役務範囲	金額 決済財源	受注企業
韓国 (蔚山)	韓ピージーエフエコスペ シャリティ	無水フッ化水素(AHF)製 造プラント建設(AHF 5 万t/y)	EPC	-	韓トーヨーエンジニアリング コリア (トーヨーコリア: 東洋エンジニアリ ング(TOYO)グ ループ)
台湾 (高雄市)	台湾中油(CPC)	洲際LNG受入・貯蔵ター ミナル建設(LNG貯蔵72 万kL=18万kL×4基)	LNG貯蔵タ ンクのEPC	-	IHIプラント〜 台・中鼎工程(CT CI)
台湾 (雲林県麥寮)	台塑石化(台湾プラスチッ クグループ)	台塑麥寮LNG受入基地建 設(地上式LNGタンク容 量32万 ρ =16万 ρ ×2基)	LNG貯蔵タ ンクのEPC	-	川崎重工業〜台C TCI
タイ (同国湾岸部)	現地バレウラ・エナジー・タ イランド(VET)	Wassana鉱区・生産井24本向 け海底石油資源開発用セン トラル・プロセッシング・プ ラットフォーム(CPP)新 設工事(原油生産量→1万 b/d)	EPC	-	タイ・ニッポン・ス チール・エンジニア リング・コンストラ クション(TNS: 日鉄エンジニアリ ング子会社)
タイ (ラヨン県マブタ ブット)	プラスケムサイアム(現地 SCGケミカルズ(SCG C)、ブラジル・プラスケム の合弁会社)	バイオポリエチレン(バイ オPE)製造プラント建設	FEED	-	東洋エンジニアリ ング
タイ (ラヨン県マブタ ブット)	丸紅・インドネシア(丸紅グ ループ)	廃プラスチック原料の油化 ケミカルリサイクル事業	事業化に向け た業務委託契 約	-	日揮ホールディン グス(日揮HD)
マレーシア (サラワク州)	ちとせグループ	CHITOSE Carbon Capture Central(微細藻類生産施 設)の微細藻類成分抽出・分 離試験用設備建設	微細藻類成分 抽出・分離試 験用設備供給	-	三菱化工機
マレーシア (ジョホール州ペ ンゲラン)	現地PRPCユーティリ ティーズ・アンド・ファシリ ティーズ(PRPC:マレー シア国営石油会社(ペトロ ナス)参加企業)	ペンゲランインテグレー ティッドコンプレックス (PIC:石油・石油化学コ ンプレックス)のバイオ製 油所プラントのアウトサイ ドバッテリー外(OSBL) 設備建設	EPC	-	現地トーヨーエン ジニアリング・アン ド・コンストラク ション(トーヨーマ レーシア:東洋エン ジニアリンググ ループ)
シンガポール (サクラ地区)	現地クラレ・アジアバシ フィック(クラレグループ)	エチレン・ビニルアルコー ル共重合体(EVOH)樹脂 製造プラント建設(EVO H樹脂:当初1.8万t/y→将 来:3.6万t/y)	建設工事一部 (鉄骨工事、配 管工事および 機器据付工 事)	投資額 4.1億ドル	現地ウトクエンジ ニアリング(UE: 宇徳グループ)

3. 海外企業の2025年プロジェクト受注動向<2025年1~12月>

※掲載情報は受注当時の情報を掲載

【エネルギー・化学】

国名 (サイト)	事業主体 (発注者等)	プロジェクト名 (規模・内容)	役務範囲	金額 決済財源	受注企業
日本 (発注主国籍)	三井海洋開発(MODEC)	浮体式海洋石油・ガス生産・貯蔵・積出設備(FPSO)向けCO ₂ 回収設備開発	FEED	—	韓サムスンE&A
中国 (内モンゴル地区)	中・内モンゴル九奏集団	持続可能な航空燃料(SAF)製造プラント建設(SAF 10万t/y)	e-メタノール由来のSAF製造技術供与	—	米ハネウェルUOP
韓国 (蔚山)	韓エスオイル(S-OIL:サウジアラビア国営石油会社(サウジアラムコ)子会社)	シャヒーンプロジェクト(石油化学コンプレックス)向けコージェネレーション(熱電併給)プラント建設(発電量121MW、蒸気供給量160t/h)	EPC	受注額 2,360億ウォン	韓DL E&C
韓国 (同国国内)	韓ハンファインパクトコーポレーション	水素製造施設プロジェクト(水素214t/d)	アンモニア分解技術供与(技術ライセンス、エンジニアリング・設計、設備、サービスの提供を含む)	—	米KBR
マレーシア (サバ州沖合)	現地PTTEPサバ石油会社(タイ・PTTエクスプロレーション・アンド・プロダクション(PTTEP)グループ)	オフショア設備構築:ロタン油田・ブル油田からペトロナス・フローティング液化天然ガス・ドゥア施設への天然ガス供給強化	カーボンスチール製パイプライン(設計・調達・建設・据付)、海底アンピリカル・ライザー・フローライン部品(輸送・据付)	—	米マクダーモット・インターナショナル
マレーシア (ジョホール州ペングラン)	現地ベンダラン・バイオリアファイナリー(現地ペトロナス・モビリティ、伊エニビル、ユーグレナの合弁会社)	バイオリアファイナリープラント向け水素製造プラント建設(水素3.8万 ρ /h)	EPCC	受注額 1.25億ドル	伊KTキネティクス・テクノロジー(伊メイレグループ傘下企業)
インドネシア (マルク州サムラキ市沖合と近隣陸上部)	INPEX~インドネシア国営石油会社(プルタミナ)~マレーシア国営石油会社(ペトロナス)	アバディLNGプロジェクト:アバディガス田開発・生産とCO ₂ 回収・貯留(CCS)システム併設型陸上LNG液化プラント建設(ガス総生産量1,050万t/y(うちLNG液化950万t/y)、コンデンセート3.5万b/d)	LNGプラントのFEED	—	KBRインドネシア(米KBRグループ)~韓サムスンE&A~現地アディカルヤ
			FPSOのFEED	—	サイペム・インドネシア(伊サイペムグループ)~現地トリバトラ・エンジニアーズ・インド・コンストラクターズ~現地トリバトラ・エンジニアーズ~マクダーモット・インドネシア(米マクダーモットグループ)

4. 日本企業の2024年度海外プロジェクト受注動向

日本企業の2024年度大型受注～金額・件数とも前年度から増加

－住友電工と日立エナジーがドイツの送電で超大型受注－

小社がまとめた日本企業による2024年度(2024年4月～2025年3月)の海外プロジェクト受注実績は、400億円以上の大型案件が15件あり、2023年度の11件から約36%増加した。大型案件の総額は2兆1,744億円で、同79%の増加。前回の2023年度は、2022年度比で金額・件数とも半減していたが、今回はやや持ち直している。

1,000億円を超える超大型案件は6件あり、2023年度の4件から増加した。うち2件は欧州の送電線整備案件で、他は鉄道3件、エネルギープラント1件だった。5件は現地法人を通じて成約しており、過去の大型M&A(企業の買収・合併)が功を奏している。

最大の受注案件は、住友電気工業によるドイツの高圧直流(HVDC)送電線プロジェクト向け架橋ポリエチレン(XLPE)ケーブル供給で、受注総額は30億ユーロ(約4,860億円)以上。この受注に伴い住友電工は現地ケーブルメーカー買収を決定した。このプロジェクトでは、日立グループのスイス・日立エナジーが送電線建設工事を20億ユーロ(約3,240億円)で受注している。これらのプロジェクトは、北海沖合の洋上風力発電所など再生可能エネルギーからの電力供給ネットワークの強化などが目的となっている。

■2024年度・日本企業の主要大型受注案件

(1件100億円以上/金額:円)

国名 (サイト名)	分野	プロジェクト名/受注業務他	受注額	受注企業
ドイツ (北部～南部間)	電力	高圧直流送電(HVDC)向け架橋ポリエチレンケーブル(XLPE)供給	4,860	住友電気工業
インドネシア (西バプア州ピンツニ地区)	エネルギー	タンガーLNGプラント向けガス増進・回収(EGR)およびCO ₂ 回収・利用・貯留(CCUS)プロジェクト(CO ₂ 回収2,500万t/y、天然ガス昇圧23.5億cf/d、EGR圧縮2.7億cf/d)	3,600	JGCインドネシア(日揮グループ)
ドイツ (ハイデ・ウエスト～ボルスム間)	電力	コリドーB高圧直流送電線V48およびV49の建設(距離約440km+約270km、電圧525kV)	3,240	スイス・日立エナジー(日立グループ)
米国 (ニューヨーク市)	鉄道	R211型地下鉄車両供給・第二次オプション分(車両435両)	1,950	川崎車両～KRC(川崎車両の米国法人)
エジプト (カイロ首都圏)	鉄道	カイロメトロ1号線改修:信号・制御・通信設備近代化(総延長44km、35駅)	1,296	日立製作所～仏コーラスレール～現地オラスコム
米国 (ペンシルベニア州)	鉄道	都市高速鉄道「マーケット～フランクフォード線」向け鉄道車両更新(基本契約200両、最大40両追加オプション)	1,086	日立製作所
英国 (ロンドン～カーマーゼン間等)	鉄道	インターシティ(特急型)鉄道車両供給(車両70両=5両×14編成)	970	日立製作所
クウェート (ドーハ)	電力	ドーハウエスト火力発電所近代化工事(既設火力発電2,400MW)	821	IHI～現地HEISCO
バングラデシュ (コックスバザール県)	港湾	マタバリ商用港湾開発工事パッケージ1(コンテナおよび多目的ターミナル各1パース建設、貨物取扱容量約100万TEU規模/y、水深約16m)	734	五洋建設～東亜建設工業

5. 最近の日本・日系企業受注・応札状況(2025年末現在)

※企業の順番は五十音順、掲載情報はその時点の情報を掲載

◆ I H I

国名	プロジェクト名/能力/総額(受注額)等	進捗状況等
台湾	洲際LNG受入基地建設/LNGタンク72万 ρ (=18万 ρ ×4基)、浮体式LNG貯蔵再ガス化設備17万 ρ	2025/3 I H I プラント～台CTCIが台湾中油(CPC)から、LNGタンクのEPCを受注。CPCのガス化設備の入札に、JFEエンジニアリングが応札へ
台湾	大林石炭火力発電所のアンモニア混焼/対象設備:既設石炭1,600MW(=800MW×2基)	2024/6FS開始。2024/3 I H I、住友商事、台湾電力の3社がアンモニア混焼の実証で覚書。2030/末までに実証の実施を目指す
タイ	マエモ発電所・石炭火力発電設備の石炭・バイオマス混焼/発電所総発電出力2,200MW以上	2025/8 I H I、タイ発電公社(EGAT)が検討中。2024/6 I H IとEGATがMOU結び、約1年間のFS実施へ
マレーシア	スンガイウダンW t Eのごみ焼却発電プラント建設(マラッカ地区)/ごみ処理量1,056t/d、発電量22MW	2025/12シンガポール・ジュロンエンジニアリング(JEL: I H I グループ)～現地イクウェイタエンジニアリング(EESB: JEL現地法人)～カナデビア～現地アラムヘゼム(カナデビアグループ)の4社連合がEPCを受注。完工予定は2029/5頃
シンガポール	サクラ火力発電所燃料転換(アンモニア燃焼対応のガスタービン技術導入)/既存発電設備400MW超	2026/1セムコーピングダストリーズが事業化を検討中。I H Iと米GEベルノバが協力、両社が共同開発中のアンモニア対応ガスタービン技術の導入が有力
フィリピン	セブ～マクタン橋(第四橋)および沿岸道路建設/長径間鋼箱桁橋:約3.3km、高架沿岸道路:全長約4.9km/総事業費1,700億円以上	2025/9工事入札公示の準備中だが、土地取用等の問題で遅延。I H I インフラシステム(I H I グループ)が応札か、2020/6円借款E/N・L/A(日本タイド)
インドネシア	ラブアン石炭火力発電所の石炭とグリーンアンモニアの混焼/既設石炭火力300MW	2025/4 I H I～現地PLN～インドネシア国営肥料会社(ブプック・クジャン)がグリーンアンモニアの小規模燃焼実証を実施
インド	ムンバイ沿岸ウッタン～ビラール間海上道路建設(UVSL)/海上橋梁新設:約43km	2025/9現地のセミナーでI H I インフラシステムが技術紹介の発表。円借款で資金調達検討。2025/5ムンバイ首都圏開発庁が事業承認。2024/8 I H I インフラシステムが経産省委託のFS実施済み
クウェート	ドーハウエスト火力発電所近代化工事/受注額約5.63億ドル/既設総発電出力2,400MW	2025/7シンガポール・ジュロンエンジニアリング(JEL)が工事に協力へ。2024/11 I H I～現地ヘビーエンジニアリングインダストリーズ&シップビルディング(HEISCO)が近代化工事を受注
UAE	再生可能エネルギー由来のグリーンアンモニア製造・販売事業(太陽光発電由来の水素によるアンモニア製造)/アンモニア20万t/y	2024/8 I H Iと現地ENOCがFS中。2028年頃に商用プラントを完工予定
コンゴ民主共和国	マタディ橋道路整備(ケーブル送気乾燥システム追加工事、橋面舗装補修、アプローチ舗装修復他)/既存吊橋:全長722m、中央径間長:520m	2025/10再入札PQ公告。2024/12工事対象の無償G/A(贈与契約)、24.12億円限度。I H I インフラシステムが保全で長年の実績あり、応札に前向き
モザンビーク	ナカラ緊急発電所整備/30MW二元燃料式ガスタービン発電設備、110kV変圧器、110kV開閉設備、燃料タンクの整備/総事業費70億円規模	2025/11住友商事～I H Iが工事受注に向け交渉中→決着へ。2024/3無償の供与限度額が69.5億円に増額
イタリア	メッシーナ海峡大橋新設(大型吊り橋)/中央径間3,300m/ユーロリンクの受注総額106億ユーロ	2025/12着工は2026年以降の見通し。2025/8 I H I～伊ウィビルド等5社による特定目的会社ユーロリンクがメッシーナ海峡公社から工事の受注を内定
ルーマニア	R o P o w e r・ドイチェシュティイ石炭火力発電所跡地のSMR発電所建設/SMR462MW(=77MW×6基)	2025/2 I H IがSMR向け鋼製モジュールのモックアップ(模型)製作を韓サムスンC&Tから受注→2025/5モックアップ完成→具体化後、鋼製モジュール実機の受注も狙う。米ニュースケール・パワー(I H I等も出資)のSMRを導入予定